

## いのちの尊さを伝える本(平成29年)

### 12月の推薦本

- ・「ガンバシ!!まけるな!!十メクジくん」 作・絵:三輪一雄 (偕成社)

おすすめコメント:十メクジがすごく前向きな生き物で、数々の危険を冒してまで新天地を求める冒険野郎だったなんて!

「殻」があるかないかだけで評価が全然違ってしまおうとは…

いろんな見方をするって大事だなあ、と考えさせられます。

(蔵書:中央図書館、西、南)

- ・「きょうりゅうがすわっていた」 作:市川宣子 絵:矢吹申彦 (福音館書店)

おすすめコメント:ほくが「うまれたとき」のお父さんがしてくれます。

ほくときょうりゅうの意外な接点にびっくり。

キリストの誕生日「クリスマス」にもピッタリの本です。

うまれたころの話のきっかけにどうぞ。

(蔵書:中央図書館、北、西)

### 11月の推薦本

- ・「チャーちゃん」 保坂和志・作 小沢さかえ・絵 (福音館書店)

おすすめコメント:「ほく、チャーちゃん。はっきり言って、いま死んでます。」

衝撃的な出だしですが、チャーちゃんと絵はどこまでも明るいのです。

死んだらどこへ行くのだろう、何をしているだろう。

そんな疑問に、チャーちゃんが答えのひとつを見せてくれました。

(蔵書:中央図書館、西)

- ・「きみはうみ」 西加奈子絵と文 (スイッチ・パブリッシング)

おすすめコメント:日が当たらない真っ暗な海で暮らしていたほく。

きれいな海に心奪われたけれど、周りのみんなは深海の美しさを教えてくれた。

大切な場所は案外そばにあるのかもしれない。

「サラバ!」で直木賞を受賞した作家・西加奈子の絵本。

(蔵書:中央図書館)

### 10月の推薦本

- ・「あの日とおなじ空」 作:安田夏葉 絵:藤本四郎 (文研出版)

おすすめコメント:夏休み、沖縄に住む曾おばあちゃんに会いに来た小学生兄弟十オキとダイキ。

戦争の話をしたがらない曾おばあちゃんは、悲しい体験を“家族の引き算”という言葉で伝える。

また、時代が変わっても変わらない空。いま、あの日とおなじ空に願う、“家族のたし算”とは。

(蔵書:中央図書館、北、西、南)

・「いのちの木」 作絵：ブリッタ・テッケントラフ 訳：森田京（ポプラ社）

おすすめコメント：森に住んでいるきつねが死んでしまったあと、仲間たちが悲しんだり思い出したいしている場所に、小さな新しい芽がでできます。

大切なものが姿かたちを変えても、思い出とともにいつまでも心の中で生きることができ、見守ってくれていることを感じます。

残されたものも悲しみをこえて成長し、温かい気持ちになれます。

（蔵書：北図書館）

## 9月の推薦本

・「人食いとらのおんがえし」 松谷みよ子 文 長野ヒデコ 絵（佼成出版社）

おすすめコメント：のどにかんざしが刺さり、口から血を流し苦しんでいた人食いとら。

そこへひとりの若者が通いかかり、のどに腕を突っ込んで、かんざしを取ってくれた。

とらは、その若者に、生涯をかけて恩返しをする…。

朝鮮半島にのこる民話。

（蔵書：中央図書館、北、あおぞら号）

・「希望の牧場」 森絵都 作 吉田尚令 絵（岩崎書店）

おすすめコメント：福島第一原子力発電所の警戒区域内に取り残された「希望の牧場・ふくしま」をモデルに、売れなくなった牛たちを何かなんでも守りつづけようと闘い続ける牛飼いの姿を、直木賞作家・森絵都が描きだす。

（蔵書：北図書館、西、南、あおぞら号）

## 8月の推薦本

・「おばあさんの馬(寂聴おはなし絵本)」 瀬戸内寂聴 文 小林豊 絵（講談社）

おすすめコメント：夫も息子も亡くし、ひとりぼっちのおばあさんは、馬商人から小屋を貸したお礼にもらった子馬を自分の子どものように育てます。

数年後、立派に育った馬を見た商人が馬の大好きな王様に話し、馬はお城に連れていかれることになったのですが…。

（蔵書：中央図書館、北、西）

・「黒グルミのからのなかに」 ミュリエル・マンゴー文 カルメン・セゴヴィア絵 ときありえ訳（西村書店）

おすすめコメント：病に倒れた母を救うため、息子のポールは死神を黒グルミの中に閉じ込める。

ところがそのせいで世界に「死」がなくなってしまう。

「死」のない世界ではたまごは割れず、畑の作物は収穫できず、魚は海へ戻ってしまう。

「生」と絶対に切り離すことのできない「死」。

母に命のおきてを教えられたポールは黒グルミを探す旅に出る。

（蔵書：南図書館、あおぞら号）

## 7月の推薦本

・「いのちのまつり－ヌチヌグスージ－」 草場一壽 作 平安座資尚 絵（サンマーク出版）

おすすめコメント： 沖縄に初めてきたコウちゃんが島のおばあごと先祖さまについて考えます。

いのちがつながっていることを優しく教えてくれるお話しです。

（蔵書：中央図書館、北）

・「ひさの星」 斉藤隆介 作 岩崎ちひろ 絵（岩崎書店）

おすすめコメント： 昔、秋田の北にひさという子どもがいました。

ある大雨の夏、幼い子を助けたひさは水にのまれてしまいます。本当の強さや優しさについて考えさせられる一冊です。

（蔵書：中央図書館、北、西、南）

## 6月の推薦本

・「あめふりあっくん」 浜田桂子著（佼成出版社）

おすすめコメント： 保育園の朝。「いやだよ。ママがいっちゃったよ」と泣く男の子の涙と降ってきた雨は、どちらが先に止むのでしょうか。

応援するおともだちの優しさに心が温かくなります。

（蔵書：中央図書館、北、南、あおぞら号）

・「ふってきました」 もとしたいづみ・作 石井聖岳・絵（講談社）

おすすめコメント： おかあさんにあげる花束を摘んでいると、空からいろいろなものが降ってきます。

びっくりして大笑いだけど、みんなの優しさにも感心。スッキリして元気が出る絵本です。

（蔵書：中央図書館、北、西）

## 5月の推薦本

・「ぼくの図書館カード」 ウィリアム・ミラー文 グレゴリー・クリスティ絵 斉藤規訳（新日本出版社）

おすすめコメント： 1920年代のアメリカ、主人公の黒人の少年は理解ある白人の協力を得て図書館から様々な本を借り、彼の前には新たな世界が広がります。原作の「ブラック・ボーイ」もおすすめです。

（蔵書：中央図書館、北、西、南）

・「ねえねえ、もういちどききたいな わたしがうまれたよるのこと」 ジェイミー・リー・カーティス作 ローラ・コーネル絵 坂上香訳（偕成社）

おすすめコメント： 主人公の女の子と両親には血のつながりがありません。でも女の子は両親の深い愛情に包まれて育てられています。ユーモアもたっぷり。あたたかい気持ちになる本です。

（蔵書：中央図書館、北、西、南）

## 4月の推薦本

・「タンポポ－あの日をわすれないで－」 光丘真理文 山本省三絵（東京文研出版）

おすすめコメント： 東日本大震災に遭った子どもたちの日々を描く。瓦礫の間にも咲くタンポポの力強さに励まされます。

(蔵書:中央図書館、北、西、南)

・「ダンテライオン」ドン・フリーマン著 アーサー・ビナード訳 (福音館書店)

おすすめコメント： お茶会のためにおしゃれをしたライオン。でも、友だちは気づいてくれなくて…自分はそのままだが一番ステキなんだね！

(蔵書:中央図書館、北、西)

### 3月の推薦本

・「ラッキーボーイ」 スーザン・ボウス作 柳田邦男訳 (評論社)

おすすめコメント：ひとりぼっちの1匹と1人が出会い、互いに大事な存在になるお話。始めはモノクロの絵が寂しいのですが、最後はとても暖かく感じられます。

(蔵書:中央図書館、北、南)

・「はじめまして」近藤薫美子作・絵 (偕成社)

おすすめコメント：さくらの木を中心に起こる新しい出会い。「はじめまして」からはじめましょう。色鉛筆の絵がとてもやさしいです。

(蔵書:中央図書館、北、西)

### 2月の推薦本

・「いのちのおはなし」日野原重明著 村上康成絵 (講談社)

おすすめコメント：「いのち」とは「時間」であり、ただ生きるのではなく自分以外の為に心と時間を使う事が大切である、と書かれています。(蔵書:中央図書館、北、西)

・「へいわって すてきだね」詩 安里有生 画 長谷川義史 (フロンヌ新社)

おすすめコメント：日本の一番西にある沖縄の小学校1年生の男の子が書いたという詩です。

平和への思いが、あまりにも素直で、心に響きました。

(蔵書:中央図書館、北、西、南)

### 1月の推薦本

・「うーん、うーん、うんち！(はじめてであういきもののふしぎ)」ネイチャー&サイエンス編 (河出書房新社)

おすすめコメント：うんちの瞬間、無防備なんですね。まず、表紙のライオンの背中に笑ってしまいました。

いきものの生態がわかる写真絵本です。

(蔵書:中央図書館、西)

・「もうすぐおしょうがつ」西村繁男 作 (福音館書店)

おすすめコメント：お正月の楽しさや家族の温かさなど、昔から大事に受け継がれてきた日本のお正月を感じま

す。

(蔵書:中央図書館、西、北、南、あおぞら号)